

# 漫画における話しことば

— 少年漫画キャラクターの文末表現を中心に —

三山 里実

## 1. はじめに

日本の漫画作品は、老若男女、多くの人の心を長年魅了し、日本の代表的な文化の一つとなっている。漫画が人々を惹きつける要因としてストーリーや絵、登場キャラクター、舞台設定などが考えられるが、キャラクターが話すことばもその一つではないだろうか。男性/女性らしいことばなどのことばづかいの特徴はキャラクターそれぞれの性格と相互に関係し、そのキャラクターの、さらにその作品の魅力を最大限に引き出していると考えられる。そんな漫画の話しことばにはどのような特徴があるのだろうか。本稿では、漫画の中でも、雑誌や単行本の発行部数が多く最も人気があると考えられる少年漫画を対象に調査考察を行う。

## 2. 先行研究

佐竹（2003）では、幼児や小学校低学年向けのアニメを対象に調査し、その結果をもとに、女性が多用する文末表現の「f指標形式」、男性が多用する文末表現の「m指標形式」に分類している。この論文では対象のアニメが子どもたちに対し、「女ことば/男ことば」規範意識の形成に関するメッセージを伝えている、と述べている。

岩崎（2018）では、20代から30代頃の若者向けのアニメを対象に佐竹（2003）の「f/m指標形式」を利用し調査している。その中で対象の特徴、指標の問題点を見出し、佐竹（2003）の「f/m指標形式」と水本他（2006）の「二項対立表」を組み合わせた新指標「f'/中性/m'指標形式」を提案した。「f'/中性/m'指標形式」は以下の通りである。

### 【f'指標形式】

- ①名詞・副詞＋ネ・ヨ、～ノヨ、～ノネ 等
- ②デンヨ（ウ）を用いた推量・確認の文
- ③～カシラ

④動詞テ形による行為要求表現

⑤ワを用いる文

【中性的指標形式】

①～カナ

②～ダネ

③～ダヨ（ネ）、疑問詞＋ダヨ等

④～ンダヨ

⑤「ダ」「ワ」のない文末 /～ネ /～ヨ

⑥カを用いない疑問文（カの付加可能なもの）、疑問詞疑問の文

【m' 指標形式】

①～ダ、ジャを使用する文

②～ダロ（ウ）

③カ・ダイ・カイを用いる普通体疑問文

④一般動詞命令形を用いる文

⑤ゾ、禁止ナ、聞き手めあてナ、ゼ、トモ、サを用いる文

【敬語】

敬語を使用する文（～デスネなど、ネを含んでいても敬語を使用している場合はこちらに含む）

【特殊】

特殊な表現（頻繁に使用しない「～ザマス」など）

この論文では、キャラクターの話しことばが「個性を強く出す」か「現実 to 寄せる」のどちらかに分類された。そして多くのキャラクターが使用していたのは中性的で「現実 to 寄せ」た話しことばであり、これにより視聴者が高校時代を舞台にしたアニメのキャラクターたちに親近感を抱くことができる、と分析している。

また大谷（2015）では、少女/少年向けコミック誌を対象に、終助詞を使用していない文末表現も含めた男女の文末表現について調査している。その結果、少女向けコミック誌に比べ少年向けコミック誌のほうが男性・女性それぞれ性差ある文末表現を多用する傾向があり、両コミック誌に共通して男性に比べ女性のほうが「男性的表現」も含めて多彩な文末表現を用いる傾向にある、とまとめている。

上記のように、アニメや漫画の話しことばは、その作品が担うメッセージを伝える役

割を担い、またキャラクターを魅力的に見せ惹きつけるための一つ的手段として用いられている。

### 3. 調査

#### 3.1. 調査対象

分析する資料は以下の三作品である。

- (1) 尾田栄一郎『ONE PIECE』（1997年連載開始、集英社）
- (2) 久保帯人『BLEACH』（2001年連載開始、集英社）
- (3) 堀越耕平『僕のヒーローアカデミア』（2014年連載開始、集英社）

本稿では発行部数が多く、様々な年代に読み親しまれている少年漫画、中でも発行部数1位のコミック誌『週刊少年ジャンプ』の連載作品を扱う。その中で作品の連載開始年が1990年代、2000年代、2010年代と、年代に偏りがないうそれぞれから人気の作品を選定した。

各作品三話までのふきだしにある発話を対象とし抽出する。各作品三話までは全キャラクターの発話を抽出し、加えて各作品のヒロインや後に主人公の仲間になるといった主人公に近いキャラクターについては体言止めやいいさし、パラ言語的要素を除いた有効発話数が51をこえるまで四話以降も発話を抽出した。これは「f'/中性/m' 指標形式」を提案した岩崎（2018）が佐竹（2003）にならい51を最低発話数に設定していたためである。

基本的に「!」「?」「…」、またふきだしの区切りを1文としているが、例外など抽出に関する条件は以下のように設ける。

- (A) 同じふきだし内の途中で文末表現が使用されている等、文の区切りが明らかな場合は同じふきだし内でも分けて抽出する。
- (B) 主語部分と述語部分が別のふきだしになっている場合や、「いや初日じゃなくても…理不尽すぎる!!」のように明らかな1文を「…」が区切っている場合は、ふきだしや「…」で文を区切らず、1文として抽出する。
- (C) ふきだし内で倒置になっている文はその中から文末表現を抽出し分類する。
- (D) また回想シーンでの特殊なふきだしの発話も抽出したが、重複した発話は初めの一度のみを抽出する。
- (E) 手書きの文字もふきだし内であれば抽出する。

(F) ふきだしの発話が他のふきだしなどで重なりそのすべてが確認できないものは抽出しない。

(G) 擬音はふきだし内でも抽出しない。

三作品のストーリー、調査対象となった主なキャラクターを公式サイトや各コミックスを参考にして以下にまとめた。( ) 内に性別を記している。

## (1) 『ONE PIECE』

### 《ストーリー》

時は大海賊時代。悪魔の実・ゴムゴムの実を食べゴムのようにのびる不思議な身体を手に入れたルフィは、海賊・シャンクスに憧れ、一人航海に出る。道中で様々な敵と対峙しながら、海賊王になるために、ゾロやナミといった仲間たちと冒険を続ける。

### 《キャラクター》

ルフィ (男)：本作品の主人公。海賊を志す。楽観的な性格。

コビー (男)：海賊船の雑用係。気弱な性格だが、海軍に入る夢を持つ。

シャンクス (男)：海賊団のお頭。ルフィが憧れる人物。

ヒグマ (男)：一話の敵のボスキャラクター。山賊棟梁。

ゾロ (男)：異名は「海賊狩りのゾロ」。親分肌で義理堅い性格。後にルフィの仲間となる。

ヘルメッポ (男)：三話の敵のボスキャラクター。海軍大佐の息子。

ナミ (女)：本作品のヒロイン。海賊専門の泥棒。後にルフィの仲間となる。

アルビダ (女)：二話の敵のボスキャラクター。女海賊でお頭。

マキノ (女)：酒場の店主。若い女性。

リカ (女)：町の少女。(おそらく小学校低学年ほどの年齢か)

※その他キャラの内訳…海賊、山賊、村人、海軍兵士

## (2) 『BLEACH』

### 《ストーリー》

幽霊が見える高校生・黒崎一護は悪霊・虚から家族を守る為に、悪霊退治をする死神・朽木ルキアの力を与えられ自らも死神となる。井上織姫をはじめとする仲間とともに、死神代行として虚や敵対勢力と戦っていく。

### 《キャラクター》

黒崎一護 (男)：本作品の主人公。ぶっきらぼうに思われがちだが義理堅い性格。

黒崎一心 (男)：一護の父親。エネルギーでテンションが高い。

朽木ルキア (女)：死神。男勝りで強気。見た目は幼いが一護の10倍程生きている。

井上織姫 (女)：本作品のヒロインで一護のクラスメイト。能天気で明るい性格。

黒崎遊子 (女)：一護の妹で夏梨の双子の姉。小学生。気が小さくおしとやか。

黒崎夏梨 (女)：一護の妹で遊子の双子の妹。小学生。男勝りでクールな性格。

※その他キャラの内訳…不良の若者、子供の幽霊、中年男性の幽霊、悪霊、高校生

### (3) 『僕のヒーローアカデミア』

#### 《ストーリー》

超常能力“個性”を持つ人間が当たり前の世界。“無個性”の少年・緑谷出久はNo.1 ヒーロー・オールマイトから“個性”を受け継ぐ。ヒーローになるために名門・雄英高校に入学し爆豪勝己や麗日お茶子、飯田天哉らと切磋琢磨しながら成長していく。

#### 《キャラクター》

緑谷出久 (男)：本作品の主人公。気弱だがここぞというときには正義感を発揮する。

オールマイト (男)：平和の象徴であるNo.1ヒーロー。人当たりがよく茶目つきがある。

爆豪勝己 (男)：緑谷の幼馴染。自尊心が強く攻撃的な性格。緑谷を蔑み強く当たる。

飯田天哉 (男)：緑谷のクラスメイト。真面目でまっすぐな性格。

麗日お茶子 (女)：本作品のヒロインで緑谷のクラスメイト。明るく裏表のない性格。

※その他キャラの内訳…野次馬 (老若男女)、緑谷・爆豪の中学のクラスメイト、

ヒーロー、敵、高校の受験生

## 3.2. 調査・分析方法

まず、岩崎 (2018) の「f/中性/m' 指標形式」と岩崎 (2018) の付録の詳細な分類データを使用し、可能な限り岩崎 (2018) に忠実に調査・分類を行った。その結果、少年漫画を対象に調査・分析するために改善すべき点を発見したため、以下にその問題点を記す。

○岩崎 (2018) では「若者が日常で使用するもの」としている「特殊」に、日常で頻繁に使用されない文末表現から「f/中性/m' 指標形式」に含まれていないが日常で使用されるとされる文末表現まで様々な要素を持った文末表現が分類されており、ひとまとまりではその特徴がつかみづらい。

○「中性的指標形式」⑤に分類された疑問でない「～カ」は、一般的に男性らしい文末表現とされている。

○「m' 指標形式」を多用するキャラクターが多く、グラフではそれぞれの特徴がつかみづらい。特に「m' 指標形式」⑤に6種類の文末表現が含まれているため改善できるのではないか。

以上の点を踏まえ改善した分類法を以下に記す。まず、様々な文末表現が含まれていた「特殊」は、私たちが生活であまり使用しないと思われる表現のみを分類することとし、「外の連中は関係ねエ!!」や「いてえ…」などの終止形原形をくずした文末表現は「m' 指標形式」に、「～ジャン」「～モン」は「中性的指標形式」にそれぞれ分類する。「～ジャン」「～モン」については遠藤（2002）と橋本（2014）で男性的/女性的の見解が同一でなく、特にどちらが使用すると決めることが困難なため、どちらも使用すると判断し「中性的指標形式」とした。次に「？」のついていない「～カ」について、「m' 指標形式」に分類することとした。加えて「特殊」に分類されていた「～カヨ」も同様に「m' 指標形式」に分類する。最後に「m' 指標形式」⑤の6種類の文末表現の中で「～ゾ」「～ゼ」「～サ」を「m' 指標形式Ⅱ」として大別し分類することとした。遠藤（2002）は、男性が自然発話でこの3種類の文末表現を使用しなくなっているとして、*“現実的でない”* 男性らしいことばを使用するキャラクターをグラフや表で見て分かりやすくする効果があると考えた。

新分類 （太字傍線で記した箇所が変更した項目や新しく追加した項目である。）

#### 【f' 指標形式】

- ①名詞・副詞＋ネ・ヨ、～ノヨ、～ノネ 等
- ②デショ（ウ）を用いた推量・確認の文
- ③～カシラ
- ④動詞テ形による行為要求表現
- ⑤ワを用いる文

#### 【中性的指標形式】

- ①～カナ
- ②～ダネ
- ③～ダヨ（ネ）、疑問詞＋ダヨ等
- ④～ンダヨ

⑤「ダ」「ワ」のない文末 /～ネ /～ヨ (聞き手めあてでないナ・カを含む)

⑥カを用いない疑問文(カの付加可能なもの)、疑問詞疑問の文

### ⑦～ジャン、～モン

#### 【m' 指標形式Ⅰ】

①～ダ、ジャを使用する文

②～ダロ(ウ)

③カ・ダイ・カイ・カヨを用いる文(聞き手めあてでないカは除く)

④一般動詞命令形を用いる文

⑤禁止ナ、聞き手めあてナ、トモを用いる文

⑥終止形原形をくずした文末

#### 【m' 指標形式Ⅱ】

ゾ、ゼ、サを用いる文

#### 【敬語】

敬語を使用する文(～デスネなど、ネを含んでいても敬語を使用している場合を含む)

#### 【特殊】

特殊な表現(頻繁に使用しない表現)

### 3.3. 調査結果

#### (1) 『ONE PIECE』

表1 「f'/中性/m' 指標形式」による『ONE PIECE』分類結果

	f' 指標形式					中性的指標形式						m' 指標形式					敬語	特殊	有効 発話	除外	総計
	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤					
ルフィ(男)	1			1		4	1	1	3	72	8	29	1	3	14	21		11	170	103	273
コビー(男)				1						14	2	2					66	1	86	76	162
シャンクス(男)										21	1	12	4	2	8	17		3	68	25	93
ヒゲマ(男)										10	9	1	4	6	24			8	62	23	85
ゾロ(男)	1									20	2	12	1		6	14		8	64	10	74
ヘルメッポ(男)							2	1		9	2	3	3	1	3	14		1	39	9	48
ナミ(女)	8	3	1	3	12					22	10	2			1		4	2	68	33	101
アルビダ(女)						2	1			11	2	1	1	8		7		1	34	10	44
マキノ(女)	1		1							3	2						6		17	12	29
リカ(女)	1	1		1						11	1								15	13	28
その他キャラ										26	1	23	2	2	12	30	3	8	108	58	166
全体	12	4	2	6	16	4	3	4	4	219	31	93	13	21	50	127	79	43	731	372	1103

表2 新分類による『ONE PIECE』分類結果

	f' 指標形式					中性的指標形式							m' 指標形式Ⅰ						敬語	特殊	有効 発話	除外	総計	
	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	①	②	③	④	⑤	⑥						
ルフィ(男)	1				1	4	1	1	3	66	8		29	1	11	14	13	4	8		5	170	103	273
コビー(男)				1						14	2		2						66	1	86	76	162	
シャンクス(男)										16	1		12	4	7	8	13	2	4		1	68	25	93
ヒゲマ(男)										10			9	1	4	6	9	5	15		3	62	23	85
ゾロ(男)	1									10	2		12	1	11	6	5	5	9		2	64	10	74
ヘルメッポ(男)							2	1		7	2		3	3	3	3	6	1	8			39	9	48
ナミ(女)	8	3	1	3	12					22	10	1	2				1			4	1	68	33	101
アルビダ(女)						2	1			10	2		1	1	9		3		4		1	34	10	44
マキノ(女)	1		1		4					3	2								6		17	12	29	
リカ(女)	1	1		1						11	1										15	13	28	
その他キャラ										23	1		23	2	7	12	16	3	14	3	4	108	58	166
全体	12	4	2	6	16	4	3	4	4	192	31	1	93	13	52	50	65	20	62	79	18	731	372	1103

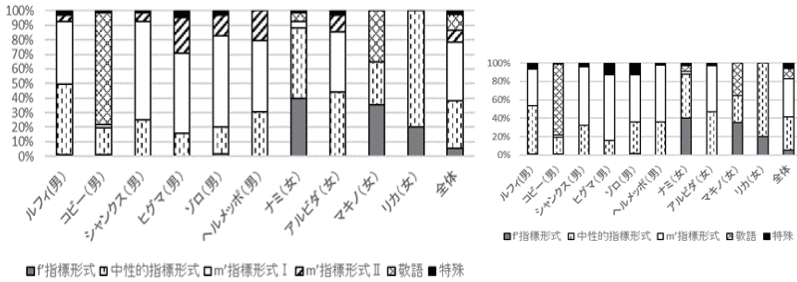


図1 『ONE PIECE』指標割合（左：新分類、右：f'/中性/m' 指標形式）

ルフィは前向きで楽観的なキャラクターらしく明るいきさっぱりした口調が目立ち、「中性的指標形式」が半数を占める結果となった。また「10人はほしいなア!!」「近くで見るとゴツツイな」などの聞き手めあてでない「～ナ」〔中性的指標形式⑤〕が多く使用されている点、「m' 指標形式Ⅰ」①の29のうち16が「いいんだ!」などの「～ンダ」である点、エクスクラメーションマーク「!」を非常に多く使用している点から、「m' 指標形式Ⅰ」を多く使用しているが、男らしさよりものんきで元気な印象を話しこばから受ける。

本調査で最も「敬語」を使用していたコビーは、「ム…ムリですよ」「ぼくが造った船です…!」といった「～デス」を用いた丁寧語がその多くを占めていた。若者の敬語離れから、敬語を多く使用するキャラクターは受け手の若者が受け入れやすい丁寧語を多く使用する、という岩崎（2018）の先行研究とも合致する。また、「m' 指標形式Ⅰ/Ⅱ」や「f' 指標形式」はほとんど使用していない。海賊の雑用係として周囲の海賊を恐れながらも媚びているコビーのキャラクターのイメージに合う話しことばだと感じる。

シャンクスは全体的に男性らしい話しことばを多く使用している。これはルフィが憧れる人物ということで納得できる。しかしただ男性らしいだけでなく「せめて あと10歳年とったら考えてやるよ」〔中性的指標形式⑤〕「お前のパンチは銃のように強いんじやなかったのか?」〔m' 指標形式Ⅰ③〕などのように、年下のルフィに対し優しく諭すような口調も目立った。

一話の敵キャラクターであるヒグマは「m' 指標形式Ⅱ」が最も多い結果となった。中でも「邪魔するぜ」「まんまと逃げてやったぜ!!」のように「～ぜ」の使用が非常に多かった。また「m' 指標形式Ⅰ/Ⅱ」の使用割合が非常に高い。傍若無人にふるまうヒグマのキャラクターが「m' 指標形式Ⅰ/Ⅱ」の多用によって表現されていると感じる。



ゾロは「f/中性/m' 指標形式」と比べ、「中性的指標形式」と「特殊」の割合が減り、「m' 指標形式 I/II」の割合が増えている。これは、「中性的指標形式」⑤に分類されていた「意味わかって言ってるのか」などの疑問文でない「～カ」と、「特殊」に分類されていた「嘘は言わねえ」のような終止形をくずした文末表現を、それぞれ「m' 指標形式 I」③と⑥に追加したためである。これにより「f/中性/m' 指標形式」では男らしい話しことばが予想より結果に表れなかったゾロの「m' 指標形式 I」の割合が増加し、親分肌なゾロの性格が表れる納得の結果となった。

三話の敵キャラクターのヘルメツポは「中性的指標形式」「m' 指標形式 I」「m' 指標形式 II」を使用しており、その割合はヒグマやゾロと似ている。しかし、他のキャラクターと比べ「m' 指標形式 I」①の「～ダ」の使用が少ない。「親父に言うぞ!!!」〔m' 指標形式 II〕「しかししぶとく生きてやがるなためえは!」〔m' 指標形式 I ⑤〕と、ように、海軍大佐の息子というキャラクターらしくわがままで上から目線な口調が目立つ。“現実的でない”つくられた話しことばという印象を強く受ける。

ナミは「f' 指標形式」と「中性的指標形式」を主に使用している。中でも「f' 指標形式」は5項目すべてを発話しているため、女性らしい話しことばを使用する傾向が強いと考えられる。特に「お宝は貰ってくわ!」「別に何もしなくていいわ」など「f' 指標形式」⑤の「～ワ」を多く使用していた。また「m' 指標形式 I」は「ナミは私だ!!!」「聞いてろ!!!」など主に怒ってツッコミをいれる際に使用されていた。

二話の敵キャラクターのアルビダは、女性キャラクターではあるものの、「m' 指標形式 I/II」や「中性的指標形式」を多く使用している。しかし「何だい?」〔m' 指標形式 I ③〕「グズだねお前は!!!」〔中性的指標形式②〕「とぼけんじゃないよ!!!」〔中性的指標形式⑤〕など、他の男性キャラクターの発話とは異なる、少し女性らしい話しことばを使用しているように思える。同じ「中性的指標形式」や「m' 指標形式 I/II」でも、他のキャラクターとは違った印象を受ける。

作品中に名前は出てくるが一村人であり登場回数が少ないマキノとリカは「f' 指標形式」や「中性的指標形式」を中心に使用しており、「特殊」やその他奇抜な文末表現は使用していない。それぞれ一般的ないわゆる女ことばや子どものことばを使用しているといえるだろう。

## (2) 『BLEACH』

表3 「f'/中性/m'指標形式」による『BLEACH』分類結果

	f' 指標形式					中性的指標形式					m' 指標形式					敬語	特殊	有効 発語	除外	総計		
	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤							
黒崎一護(男)								4	8	63	10	35	11	22	24	24	2	16	219	103	322	
黒崎一心(男)								1	1	8			5	1	1	1	5		2	25	7	32
朽木ルキア(女)	1		2			1					40	10	54	5	11	16	30		14	184	72	256
井上織姫(女)	3			3	1	1		2		22	13	2				1	1	2	51	74	125	
黒崎遊子(女)		1		1				1		18	3							1	25	15	40	
黒崎夏梨(女)		1		1	1		1				9	1	2	2		1	1		20	15	35	
その他キャラ		1				1	1				9	8	6		1	1	2	4	3	37	31	68
全体	4	3	2	5	2	3	2	8	9	169	45	104	19	35	43	63	7	38	561	317	878	

表4 新分類による『BLEACH』分類結果

	f' 指標形式					中性的指標形式							m' 指標形式 I						敬語	特殊	有効 発話	除外	総計	
	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	①	②	③	④	⑤	⑥						
黒崎一護(男)								4	8	45	10		34	11	45	24	17	11	7	2	1	219	103	322
黒崎一心(男)								1	1	7			5	1	2	1	3	1	2		1	25	7	32
朽木ルキア(女)	1		2			1					33	10	54	5	18	16	21		9		14	184	72	256
井上織姫(女)	3			3	1	1		2		23	13		2		5	18	21		1	1	1	51	74	125
黒崎遊子(女)		1						1		18	3	1										25	15	40
黒崎夏梨(女)		1		1	1		1			9	1		2	2		1	1					20	15	35
その他キャラ		1				1	1			9	8	1	6		1	1	1	2	2	4		37	31	68
全体	4	3	2	5	2	3	2	8	9	144	45	2	103	19	66	43	43	14	20	7	17	561	317	878

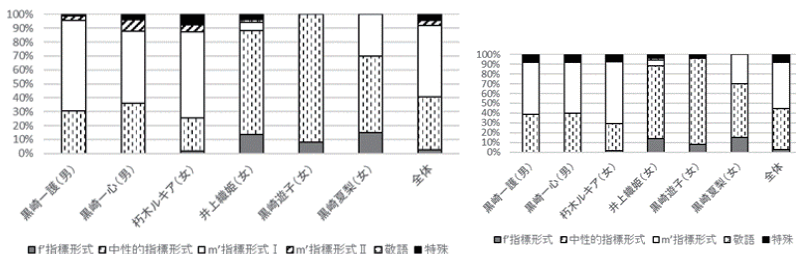


図2 『BLEACH』指標割合 (左: 新分類、右: f'/中性/m'指標形式)

黒崎一護は「f'/中性/m'指標形式」と比べ、「m'指標形式 I」の割合が増えている。これは、「これがバタバタせずにいられるか!!」「尸魂界とかいう所に帰ったんじゃないのかよ!？」などの疑問文でない「～カ」と「～カヨ」、「外の連中は関係ねエ!!」のような終止形をくずした文末表現を多く使用しており、これらを新たに「m'指標形式 I」③と⑥に加えたためである。全体的に男性らしい話しことばを使用しており、不良のように見られがちだという外見の特徴をよく表しているように思える。

黒崎一護の父・黒崎一心は「m'指標形式 I/II」や「中性的指標形式」を主に使用している。発話を見ると「2階でバタバタすんなア!!」[m'指標形式 I ⑤]「な…なんでだよ!!」[中性的指標形式③]「オマエが死神になったら…俺達を助けられるんじゃないのかア～!？」[m'指標形式 I ③]というように、表情豊かな口調が目立つ。テンションの高い性格が、話しことばにもよく表れている。

朽木ルキアは女性キャラクターであるが、「m'指標形式 I/II」や「中性的指標形式」

を多く使用している。特に「だが他に方法は無いのだ!!」など「m' 指標形式 I」①の「～ダ」を多く使用しており、はっきりとした口調であることが分かる。また「気になどならぬ」〔特殊〕などの古風なことばづかいを全体的に使用している。本作品で最初に登場する“死神”という異質なキャラクターとして、話しことばの面からも強烈なインパクトを残している。また「f' 指標形式」の使用は、人間として高校に通うために人間がよく使う現代語だと思いついて朽木ルキアが独学で身につけたものであり、朽木ルキアのことを“死神”だと知らない人物が周囲に多くいる高校での場面で多く使用され、「心外ぬ」〔f' 指標形式①〕「貴さ… …あなたのをいっしょに見せてもらってもいいかしら？」〔f' 指標形式③〕がその例である。「中性的指標形式」⑤の「黒崎くん私まだ教科書とかないの」や「特殊」の「あら井上さんご機嫌麗しゅう！」といった、彼女の他の発話とは異なった、女性らしさのある話しことばも、同様の場面で使用されたものである。

井上織姫は「中性的指標形式」を多く使用していることが分かる。「や…やっぱりそうかなあ…」〔中性的指標形式①〕「黒崎君はここで何してたの？」〔中性的指標形式⑥〕など、おっとりした話しことばが目立つ。天然で常に屈託のない笑顔をふりまく明るい性格が話しことばからも感じられる。「f' 指標形式」は「すごいわ！」〔f' 指標形式⑤〕「OKよ！」〔f' 指標形式①〕などの発話例があるが、これらは好意を寄せる黒崎一護の妄想をしている中で自身が発話しているものがほとんどであった。

黒崎遊子と黒崎夏梨は双子の姉妹という設定である。黒崎遊子は「m' 指標形式 I/II」を使用せず「あたしなんてばんやりとしか見えないもん」〔中性的指標形式⑦〕「もーやめなよ二人とも」〔中性的指標形式⑤〕など穏やかな「中性的指標形式」の使用が目立つ。一方で黒崎夏梨は、「ほっときなユズ」〔m' 指標形式 I ⑤〕「来るわけねーだろ！」〔m' 指標形式 I ②〕など「m' 指標形式 I」を使用し男勝りな性格が伝わる。性格特徴が全く異なる双子のキャラクターが話しことばでも表現されていることが分かる。

(3) 『僕のヒーローアカデミア』

表5 「f'/中性/m' 指標形式」による『僕のヒーローアカデミア』分類結果

	f' 指標形式					中性的指標形式						m' 指標形式					敬語	特殊	有効 発話	除外	総計				
	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤									
緑谷出久(男)				2		1		2	③	4	⑤	1	1	33	9	15	2	1		3	14	1	84	125	209
オールマイト(男)	1	1					3	1	4			4		52	3	19	5	3	6	34	1	6	138	55	193
爆豪勝己(男)									2			11	2	10	3	1	4	15				5	53	29	82
飯田天哉(男)									1			13	2	8	2	6	1	11		8	3	55	16	71	
麗日お茶子(女)					1			1	2			29	6	3						6	3	51	31	82	
その他キャラ	2			1	1				3	1	39	16	16	3	4	8	28		8	18	148	89	237		
全体	3	1		4	1	5	3	11	2	177	38	71	15	15	19	91	37	36	529	345	874				

表6 新分類による『僕のヒーローアカデミア』分類結果

	f' 指標形式					中性的指標形式							m' 指標形式 I						敬語	特殊	有効発話	除外	総計	
	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	①	②	③	④	⑤	⑥						
緑谷出久(男)		1		2				1	1	33	9		15	2	1				3	14	1	84	125	209
オールマイト(男)	1					3	1	4		52	3		19	5	3	6	8		26	1	6	138	55	193
爆豪勝己(男)								2		6	2		10	3	6	4	6	4	9		1	53	29	82
飯田天哉(男)								1		10	2		8	2	9	1	7		4	8	3	55	16	71
麗日お茶子(女)					1	2				29	6	2	3						6	1	51	31	82	
その他キャラ	2		1	1				3	1	36	16		16	3	9	8	12	5	16	8	11	148	89	237
全体	3	1	4	1	5	3	11	2	166	38		21	71	15	28	19	33	9	58	37	23	529	345	874

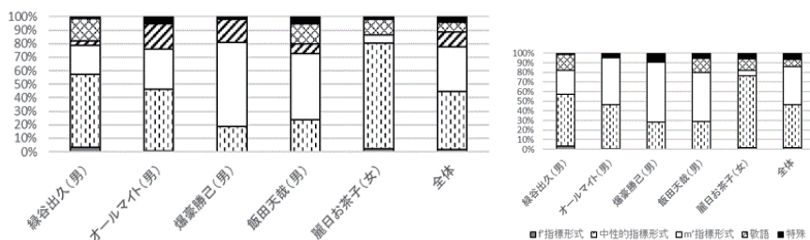


図3 『僕のヒーローアカデミア』指標割合（左：新分類、右：f'/中性/m' 指標形式）

緑谷出久は「本当だよ」〔中性的指標形式③〕「受験番号連番なのに会場違うね」〔中性的指標形式⑤〕など「中性的指標形式」を多く使用しており、ことばに棘が少なく優しい印象を受ける。また、「なんか…ズルだな…僕は…」〔中性的指標形式⑤〕のように文の途中や文末に三点リーダー「…」が非常に多く使用されており、優柔不断で気弱な性格を話しことばから感じることができる。緑谷出久の発話総数が208なのにも関わらず有効発話は84と「除外」が多くなったのは、言いさしが多かったという要因を挙げることができ、ここからも緑谷出久の性格を読み取ることができる。

オールマイトは「f'/中性/m' 指標形式」での「m' 指標形式」が、新分類においてはそのうち約半数が「m' 指標形式Ⅱ」に分類された。その「m' 指標形式Ⅱ」の発話26のうち20が「～サ」を使用していた。また、決め台詞「私が来た！！」〔中性的指標形式⑤〕にみられるようにはっきりと言い切る口調が目立つ。作品中で平和の象徴と呼ばれNo.1ヒーローとして周囲から称えられる、強くて自信に満ち溢れたキャラクター性が話しことばに反映されているのではないか。

爆豪勝己は「m' 指標形式Ⅰ/Ⅱ」の使用が多い。「救けられてもねえ！！」のように「m' 指標形式Ⅰ」⑥の終止形をくずした文末表現を使用していたことから、「特殊」が減り男性らしい話しことばを使用していることが明確になった。「こら ワケを言えデク てめえ！！」〔m' 指標形式Ⅰ④〕「くそエリートじゃねえか」〔m' 指標形式Ⅰ③〕「話まだ済んでねーぞデク」〔m' 指標形式Ⅱ〕など、棘があり鋭い話しことばは文末表

現以外からも読み取れる。

飯田天哉は「m' 指標形式 I」を多く使用している。発話を見ると「緑谷くん…君はあの実技試験の構造に気付いていたのだな」[m' 指標形式 I ⑤]「彼が入試時に何を成したか知らんのか! ?」[m' 指標形式 I ③] など男性らしい話しことばでありつつ、文末表現や二人称、三人称から真面目で丁寧な話しことばであることが分かる。また、高校の先生に対して「敬語」を使用している他にも、クラスメイトである爆豪勝己に対して「状況を教えたまえ!」という「特殊」な敬語表現を使用しており、律儀でかたい印象を受ける。

麗日お茶子は「中性的指標形式」を多く使用している。その発話を見ると「今日って式とかガイダンスだけかな?」[中性的指標形式①]「コンビじゃん!!」[中性的指標形式⑦]「縁があるね!」[中性的指標形式⑤] などフランクで親しみやすい話しことばであると感じる。本作品の作者は麗日お茶子について、意外と口が悪くそれは裏表がない証拠、とコミックスで述べている。「中性的指標形式」を明るい口調で話し、社交的な性格が表れている。

また、緑谷出久、飯田天哉、麗日お茶子はいずれも発話の1割以上「敬語」を使用しており、丁寧語の「～デス」「～マス」がほとんどを占めた。『ONE PIECE』のコピー同様、受け手の若者が受け入れやすい丁寧語を多く使用する、という岩崎 (2018) の先行研究と合致している。「敬語」を使用する発話は、少年漫画の主な読者とされている小中学生に分かりやすい丁寧語が使用されやすい傾向があると考えられる。

## 4. 少年漫画の話しことばの特徴考察

### 4.1. ヒロインキャラクターの話しことば

本節では全9名の対象女性キャラクターのうち、各作品のヒロイン3名に注目するとナミ (『ONE PIECE』、以下O)、井上織姫 (『BLEACH』、以下B)、麗日お茶子 (『僕のヒーローアカデミア』、以下僕) の順に「f' 指標形式」の割合が高いことが分かる。ナミ (O) については「中性的指標形式」と同程度「f' 指標形式」を使用しているが、井上織姫 (B) と麗日お茶子 (僕) については「中性的指標形式」を多く使用しており、麗日お茶子 (僕) にいたっては「f' 指標形式」の使用は1であった。ナミ (O) が「f' 指標形式」を多く使用し、井上織姫 (B) や麗日お茶子 (僕) の「f' 指標形式」をあまり使用しない理由として、作品の設定が挙げられるのではないかと考えられる。『ONE PIECE』は大海賊時代が舞台であり、私たちの日常とはかけ離れていてフィクション要素が強い。一

方の『BLEACH』、『僕のヒーローアカデミア』は（現実的でない設定も一部あるが）主人公が学校に通っていたり、家族と暮らしていたりと、その基本的な舞台設定は私たちの生活に馴染むものである。そしてそのヒロイン2名はそれぞれ主人公と同年で同じ学校に通うキャラクターである。そのため、現実においても違和感なく感じさせるために「f' 指標形式」はあまり使用せず、「中性的指標形式」を多く使用していると考える。

次に以下に各キャラクターの典型的な例を挙げる。

ナミ（O）

- ・それは 行つての お楽しみよ！！〔f' 指標形式①〕
- ・ナメて貰っちゃ困るわ！〔f' 指標形式⑤〕
- ・海賊海賊ってバカな時代だわ！！〔f' 指標形式⑤〕
- ・この町の人達はみんな町ハズレに避難してるの〔中性的指標形式⑤〕
- ・ナミは私だ！！〔m' 指標形式Ⅰ①〕

井上織姫（B）

- ・シーソーと競争をカケてるのね！〔f' 指標形式①〕
- ・にげて！〔f' 指標形式④〕
- ・最近わりとよく はねられるんだよね えへへ。〔中性的指標形式③〕
- ・ホントこの包帯のとこより足の方が痛いの！〔中性的指標形式⑤〕
- ・黒崎くんだ！！〔m' 指標形式Ⅰ①〕

麗日お茶子（僕）

- ・待ってー！〔f' 指標形式④〕
- ・プレゼント・マイクの言つてた通り受かったんだね！！〔中性的指標形式②〕
- ・緊張するよねえ〔中性的指標形式⑤〕
- ・パンチすごかったもん！！〔中性的指標形式⑦〕
- ・でも「デク」って…「頑張れ！！」って感じでなんか好きだ私〔m' 指標形式Ⅰ①〕

発話例を見ると、ナミ（O）は「f' 指標形式」を多く使用しているが、その口調は他のヒロイン二人に比べて鋭くきつい印象を受ける。これにはナミ（O）の強気な性格を表現する効果があると考えられる。ナミ（O）は、元は海賊専門の泥棒だが、主人公・ルフィと出会い海賊の航海士となり航海に関する能力は非常に高い。また、お金とミカンが好きで、お金やお宝が絡むと怖いもの知らずになる、「ナミに殺される」という理

由で海賊仲間の男性キャラクターたちは飢え死にしそうでもミカンを食べない、というように男性キャラクターと対等にやりあう性格がうかがえる。岩崎（2018）では「f' 指標形式」を使用すると「中性的指標形式」を使用した場合に比べて、他者を突き放したり発話の相手に激しく言っている印象が強いと述べている。「f' 指標形式」を多く使用することでナミ（O）の強気な性格を表現しているのではないか。

同じヒロインという立場のキャラクターでも、その性格や作品の舞台設定によって話しことばは異なり、必ずしも「f' 指標形式」が多く使用されるわけではないのである。

#### 4.2. 特殊な文末表現の使用

本節では「特殊」を多く使用しているキャラクターに注目する。新分類で「特殊」へ分類される文末表現を限定したため、ほとんどのキャラクターが「f'/中性/m' 指標形式」に比べ新分類で「特殊」へ分類される発話が減っている。しかしその数が変わらず多かったのが朽木ルキア（B）である。

朽木ルキア（B）は男勝りな性格で高飛車な態度をとることが多く、女死神という設定をもつ主要キャラクターである。小柄で黒い和服を着ており、設定だけでなく性格や外見も非常に特徴的なキャラクターである。以下に朽木ルキア（B）の「特殊」の典型的な例を挙げる。

- ・動けまい！
- ・貴様の家族はまだ誰一人奴に魂を喰われてはおらん！
- ・死神は全ての靈魂に平等でなければならぬ！

朽木ルキア（B）は私たちが生活で使用しない「特殊」の発話表現の中でも古風な古めかしいことばを使用していることが分かる。朽木ルキア（B）の「特殊」の割合は1割弱ほどで、単体で見れば決して多いとは言えない。女性キャラクターではあるが、他の多くの男性キャラクターと同様に「m' 指標形式」の指標割合が最も多く、「中性的指標形式」も使用している。つまり、他のキャラクターが用いるものと同じような話しことばに古風で古めかしいことばという違和感を加えることでキャラクターの特徴を引き立てているのではないか。実際に「特殊」の発話以外の典型的な例も挙げてみよう。

- ・貴様のような短慮な餓鬼にも得心がいくよう易しく図解してやる

- ・私はこう見えても貴様の10倍近く生きておるのだ〔m' 指標形式Ⅰ①〕
- ・死神が見えるくせに死神の存在は信じぬと言うのか！〔m' 指標形式Ⅰ③〕

上記の三例のみでも「貴様」という二人称や動詞・進行・状態などの「オル・～テオル」、打ち消しの「～ヌ」と、文末表現以外にも古風で古めかしいことばづかいがみられる。馴染みのある話しことばと普段生活で使用しない古風で古めかしいことばを混ぜあわせることで、発話の意味も問題なく通じ、かつ朽木ルキア（B）の“死神”という特異な設定を印象付ける効果があるのではないだろうか。加えて女性キャラクターである朽木ルキア（B）が「f' 指標形式」でなく「m' 指標形式」を多く使用していることも「特殊」の古風なことばの使用と合わせて違和感となり、より朽木ルキア（B）の特徴を際立たせていると考える。

#### 4.3. 男性らしいことばを多用するキャラクター

本節では男性らしい話しことばを多く使用するキャラクターに注目し考察したい。本調査で調査対象となったキャラクターのうち「m' 指標形式Ⅰ」と「m' 指標形式Ⅱ」を合わせた男性らしい話しことばを最も高い割合で使用しているキャラクターはシャンクス（O）、ヒグマ（O）、ゾロ（O）、ヘルメッポ（O）、アルビダ（O）、黒崎一護（B）、黒崎一心（B）、朽木ルキア（B）、オールマイト（僕）、爆豪勝己（僕）、飯田天哉（僕）である。

「m' 指標形式Ⅰ」と「m' 指標形式Ⅱ」の使用割合が高いキャラクターの中でも様々な特徴がみられる。『ONE PICE』のキャラクターを見るとヒグマ、ゾロ、ヘルメッポ、そして女性キャラクターのアルビダが「m' 指標形式Ⅱ」を多く使用していることが分かる。このうちヒグマ、ヘルメッポ、アルビダは主人公・ルフィと対立したり、村の人々に恐れられていたりする、いわゆる悪役キャラクターであり、村を荒らす、人々に対し高圧的な態度をとるといった身勝手な性格の持ち主である。このような悪役キャラクターが「m' 指標形式Ⅱ」の「～ゾ」「～ゼ」「～サ」という私たちが生活であまり使用しない“現実的でない”話しことばを使用しやすい傾向があり、これにより悪役ならではの威圧感を出す効果があると考えられる。『僕のヒーローアカデミア』ではオールマイトと爆豪勝己が「m' 指標形式Ⅱ」を多く使用している。爆豪勝己は主人公・緑谷出久の幼馴染であり、自尊心が強く緑谷出久を蔑む態度をとっており、自他共に認めるほど戦闘能



力が高い。またオールマイトは作品中で平和の象徴と呼ばれるNo.1ヒーローで、圧倒的な存在感、信頼がある。さらに『ONE PIECE』のゾロは「海賊狩りのゾロ」という異名を持つ三刀流の剣士で、世界一の剣豪を目指し鍛錬を怠らず、非常に好戦的である。つまり「m' 指標形式Ⅱ」の「～ゾ」「～ゼ」「～サ」の使用は、悪役キャラクターに限らず、現実では感じられないそのキャラクターの威圧感や強さ、自信という特徴を表現することができるのではないだろうか。

多くの少年漫画にとって男性らしい話しことばを使用するキャラクターは欠かせない存在であるが、その話しことばにもキャラクターそれぞれの特徴が表れており、キャラクターの個性やイメージを印象付けているのではないか。

4. 4. アーキタイプからみるキャラクターのことば

本節ではアーキタイプの観点から考察を深めたい。アーキタイプとは、「元型」と訳されるユングが提唱する分析心理学の概念であり、アンドリュー・サミュエルズ他(1993)によると「こころの中の遺伝的に受け継がれた部分であり、本能に結びついた心の行動を構造化するための型である」と定義されている。映画のシナリオ評価の専門家であるボグラウ(1998)は、アーキタイプを「物語や夢に登場するキャラクターの基本的な役割を分類したもの」と展開させており、物語の登場人物は〈ヒーロー〉や〈メンター〉、〈同調者〉、〈トリックスター〉、〈影〉などに整理されると提示している。本節ではこの中の〈ヒーロー〉を中心に考察する。

ここでいう〈ヒーロー〉とは主人公のことである。本調査で対象とした三作品の主人公はルフィ(O)、黒崎一護(B)、緑谷出久(僕)である。彼らの新分類の指標割合をまとめたものを図4に示す。

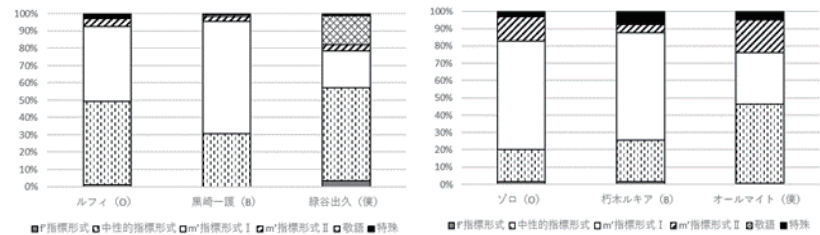


図4 各主人公キャラクターの新指標割合 図5 主要サブキャラクターの新指標割合

「中性的指標形式」や「m' 指標形式Ⅰ」の使用割合にはそれぞれ違いがみられるが、全員に共通している点が二つある。一つは「m' 指標形式Ⅱ」の割合の低さである。もう一つは「特殊」の割合の低さである。「特殊」の発話に関しては、あまりなかったキャラクターがほとんどであるが、例にもれず主人公キャラクターたちにも共通していた。これらの共通点から、主人公キャラクターの話しことばは口癖など大きな特徴が少なく、「～ゾ」や「～サ」などの“現実的でない”話しことばではなく私たちの生活に違和感なく馴染む話しことばを使用する傾向が強いと考える。

金水・田中・岡室（2014）や金水（2017）はこれを「役割語セオリー」と呼んでいる。金水（2017）では役割語セオリーについて以下のように述べている。

主人公は、物語の受け手の自己同一化を容易にする必要がある。優れた能力を持ち、美男・美女であることが多いにしても、物語の始まりの時点では、過度に能力や美しさが強調されるというよりは、むしろ「普通」の人として描かれることが多いのはそのせいである。旅を続けるなかで、その美しさや能力が磨かれていくことになるのである。言葉の面でも、特異や方言など、役割語度の高い話し方は避けられる傾向にある。典型的には標準語である。これを「役割語セオリー」と呼ぶ。（p245）

このように物語の主人公キャラクターは受け手の自己同一化を図るために奇抜な特徴付けは行われず、ことばづかいの面でもその傾向があらわれるのである。上記では特異や方言という例が挙げられているが、老人語やお嬢様ことばなどのいわゆる役割語だけでなく、「m' 指標形式Ⅱ」の「～ゾ」などの私たちが生活であまり使用しない、つまり読者の生活に馴染みがない話しことばも避けられる傾向にあるのではないか。

一方で、主役を取り巻き、ストーリーの進行上重要な役目を果たすキャラクターは、特徴的な役割語やそのキャラクターの個性が強く出る話し方をすることが多いという。実際に各作品の主人公と他のキャラクターを比較してみる。『ONE PIECE』で「海賊狩りのゾロ」と恐れられる剣士でのちに主人公の最初の仲間となる〈同調者〉ゾロ、『BLEACH』で主人公に“死神”の力や知恵を与え共に戦う〈メンター〉であり〈同調者〉朽木ルキア、『僕のヒーローアカデミア』で主人公に超常能力“個性”を授け勇気づける〈メンター〉オールマイトの3名の新分類の指標割合を図5にまとめた。

どのキャラクターも主人公キャラクターに比べて「m'指標形式Ⅱ」の割合が高いことが分かる。朽木ルキア（B）は他の2名と比べその割合が低いが、4.2.で述べたように

特徴的な話しことばを使用しており、女性キャラクターにも関わらず「m' 指標形式Ⅰ/Ⅱ」を多く使用している。また、ゾロ（O）は同作品の主人公・ルフィ（O）と比べ「m' 指標形式Ⅰ/Ⅱ」を多く使用し、非常に男性らしい性格特徴が想像できる。オールマイト（僕）も同作品の主人公・緑谷出久（僕）に比べ「m' 指標形式Ⅰ/Ⅱ」を多く使用していることに加え、「m' 指標形式Ⅱ」が有効発話全体の約2割とかなり高い割合で使用されており、話しことばの特徴が強いことがうかがえる。以下に主人公キャラクターも合わせた6名の典型的な例を挙げる。

ルフィ（O）

- ・あーあれはびっくりしたよまじで〔中性的指標形式⑤〕
- ・それにおれはやれそうな気がするんだけどな〔中性的指標形式⑤〕
- ・ちゃんときたえてるからおれのパンチは銃のように強いんだ！！！！

〔m' 指標形式Ⅰ①〕

黒崎一護（B）

- ・新しい花は近いうちに持ってきてやるよ〔中性的指標形式⑤〕
- ・あんなバケモノと戦うのなんて2度とゴメンだ〔m' 指標形式Ⅰ①〕
- ・覚悟だとかそんなモン知るか！！〔m' 指標形式Ⅰ③〕

緑谷出久（僕）

- ・そっ…そんな規定もうないよ！〔中性的指標形式⑤〕
- ・じゃあ…つまり身体をつくり上げるトレーニングの為に…ゴミ掃除…？

〔中性的指標形式⑥〕

- ・僕はあなたみたいになりたいんだ…！！〔m' 指標形式Ⅰ①〕

ゾロ（O）

- ・言っとくがそんな条件ならこっちから願ひ下げだ〔m' 指標形式Ⅰ①〕
- ・ちょっとこっち来てこの縄ほどいてくれねェか〔m' 指標形式Ⅰ③〕
- ・海賊の勧誘なら断ったハズだぜ…！〔m' 指標形式Ⅱ〕

朽木ルキア（B）

- ・敵前で背後への集中を怠るとは…迂闊だった〔中性的指標形式⑤〕
- ・死神にしか使えぬ高尚な呪術だ！〔m' 指標形式Ⅰ①〕
- ・…まさか…1つのこらず叩いたんじゃあるまいな〔m' 指標形式Ⅰ⑤〕

オールマイト（僕）

- ・私が来た！！〔中性的指標形式⑤〕
- ・これは君自身が勝ち取った力だ〔m' 指標形式Ⅰ①〕
- ・私はオールマイトさ〔m' 指標形式Ⅱ〕

発話例を見ても主人公キャラクターに比べて主要なサブキャラクターのほうが話しことばに強い特徴や個性的な性格を感じることができる。しかしその分、実際の生活の中でこのような話しことばを聞いたり、話したりすることはほとんどないだろう。

一方の主人公キャラクターは主要なサブキャラクターと比べると奇抜な特徴が少ない。そして私たちが生活の中でよく聞いたり、話したりすることばに近いと感じる。そんな奇抜でない話しことばの主人公キャラクターたちにも3.3.で記したような特徴がそれぞれにある。性格や外見が異なる3名の主人公キャラクターは、その個性を出しつつも、特殊な表現や「～ゾ」「～ゼ」「～サ」といった現実であり使用しない話しことばは使用せず、読者の生活の中で馴染みのある話しことばを使用しているのである。

このように主人公キャラクターは役割語セオリーにならい、特徴の少ない話しことばを使用する傾向がある。これは、特徴あることばを話し個性が強い多くのサブキャラクターの存在があってこそ成り立つのである。そしてその役割語セオリーの中で、それぞれのキャラクターの性格を巧みに表現し、そのキャラクターや物語の魅力を引き出しているのではないだろうか。

## 5. おわりに

少年漫画の登場キャラクターはその性格特徴や、作品の舞台設定、そのキャラクターの作品中の役割・立ち位置に合わせた話しことばを使用していることが分かった。これは比較的普通といえる1名の主人公キャラクターを中心にストーリーが展開していくことが多い少年漫画の特徴が理由に挙げられる。読者が共感・応援したくなる主人公キャラクターと深く関わりストーリーの流れで重要な役割を果たすサブキャラクターたちに、強い個性や特徴が与えられやすいのではないか。

加えて、長い連載の中で様々なストーリーを展開していき、その度に新たなキャラクターが登場することがあるため、漫画の中では様々な特徴の話しことばが使用されると考える。少年漫画は、いわば「主人公キャラクターの成長物語」である。長いストーリーの中で、様々なキャラクターと出会い、鍛え、仲間と協力し、敵と対立し、主人公キャラクターは成長していく。漫画のキャラクターの話しことばは、その作品や登場するキャ

ラクターの魅力を最大限に引き出すために大切な役割を果たしているのである。

## 〈参考文献〉

- Andrew Samuels・Bani Shorter・Fred Plaut・浜野清志・垂谷茂弘訳（1993）『ユング心理学辞典』創元社
- Christophor Vogler（1998）『The Writer's Journey』Michael Wiese Productions（＝岡田勲・講元美香訳（2002）『神話の法則－ライターズジャーニー』ストーリーアーツ＆サイエンス研究所）
- 岩崎麻琴（2018）「アニメ作品における話し言葉－若者向けアニメ作品を対象に一」『日本文学』114, p155-176
- 遠藤織枝（2002）「男性のことばの文末」現代日本語研究会編『男性のことば・職場編』ひつじ書房 p33-45
- 大谷伊都子（2015）「漫画における男女の文末表現－少女向けコミック誌と少年向けコミック誌の比較－」『梅花女子大学短期大学部研究紀要』63, pp9-22
- 金水敏（2003）『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店
- 金水敏・田中ゆかり・岡室美奈子編（2014）『ドラマと方言の新しい関係－「カーネーション」から「八重の桜」、そして「あまちゃん」へ』笠間書院
- 金水敏（2017）「第11章 言語－日本語から見たマンガ・アニメ」山田奨治編『マンガ・アニメで論文・レポートを書く－「好き」を学問にする方法』ミネルヴァ書房 p 239-262
- 佐竹久仁子（2003）「テレビアニメの流布する『女ことば/男ことば』規範」『ことば』24, p43-59
- 橋本梨沙（2014）「書き言葉と話し言葉の文末表現－媒体・男女間の差異－」『日本文学』110, p217-232
- 水元光美・福盛 寿賀子・福田 あゆみ・高田恭子（2006）「ドラマに見る女ことば『女性文末詞』－実際の会話と比較して－」『北九州市立大学国際論集』4, p51-70
- 『ONE PIECE』公式サイト  
<https://one-piece.com/> 2019年9月20日閲覧
- 『BLEACH』公式サイト  
<http://www.j-bleach.com/index.html> 2019年9月20日閲覧

『僕のヒーローアカデミア』 週刊少年ジャンプ公式サイト

<https://www.shonenjump.com/j/rensai/myhero.html> 2019年9月20日閲覧

『僕のヒーローアカデミア』 アニメ公式サイト

<https://heroaca.com/> 2019年9月20日閲覧

#### <調査資料>

尾田栄一郎 『ONE PIECE』 1巻 集英社 (1997年初版)

尾田栄一郎 『ONE PIECE』 2巻 集英社 (1998年初版)

久保帯人 『BLEACH』 1巻 集英社 (2002年初版)

堀越耕平 『僕のヒーローアカデミア』 1巻 集英社 (2014年初版)

堀越耕平 『僕のヒーローアカデミア』 2巻 集英社 (2015年初版)

(みやま さとみ 2020年日文卒)